

## 長年培った高度な技術力と独自のシステムで「マーク」を製造し、業界をリードする

小西マーク株式会社 大阪市城東区

野球やサッカーなどスポーツをする人やスポーツを観戦する人にとってお馴染みの「ユニフォーム」。サッカーW杯ドイツ大会の際、日本人サポーターが代表選手と同じ青いユニフォームを着て応援していた姿は記憶に新しい。

小西マーク株式会社は、スポーツ選手などが着用するユニフォームに取り付けるチーム名、選手名や背番号などの「マーク」を製造している。

### 会社概要



会社名：小西マーク株式会社  
所在地：大阪市城東区諏訪4丁目  
22番30号  
電話：06-6969-1111  
FAX：06-6969-1110  
設立：昭和33年  
代表者：代表取締役社長 奥村 幸徳  
資本金：3,000万円  
従業員：71名  
事業：スポーツウェア用マーク  
の企画・製造

URL：<http://www.konishi-mark.com/>



本社社屋

### 大手スポーツ用品メーカーと取引

野球やサッカーなどのスポーツをする人、またスポーツを観戦する人にとっても、選手たちが着用するユニフォームは馴染みが深い。そのユニフォームには必ず鮮やかなマークが付いている。チーム名、選手名や背番号などが書かれたものだ。このマークを製造しているのが大阪市城東区に本社を置く小西マーク株式会社である。

同社は昭和33年に設立。当初は白衣や帽子にマークを付けていた。その後事業拡大に伴い、岡

山支店、東京支店などを開設、昭和57年には本社工場を現在地に移転するとともに次々と新しい機械設備の導入も行ってきた。業績は順調に伸び、今や年商10億を超える企業にまで成長した。納入先はスポーツ用品メーカーが60%を占め、卸問屋が15~20%、残りがスポーツ用品小売店といった割合である。主な加工実績としては、プロ野球、Jリーグなどの国内プロチーム、日本代表チームのマーク加工がある。また、アマチュアのスポーツユニフォームのマーク加工も数多く取扱い、マークに関わるものなら全て加工が可能である。

製品のうち6割を納めるスポーツ用品メーカーの名前を見ると、国内のほとんどの大手メーカーの社名が並ぶ。大手メーカーは一般的に納期や品質管理に対し非常に厳しい条件を求めてくるが、同社はその厳しい条件を見事にクリアしている。これは大きな強みといえよう。



同社の頭脳ともいえるデザイン部

### 顧客の多様なニーズに応える

マークの製造加工は特殊な仕事である。従来は個々の小売店が手作業でやっていたが、非常に手間暇のかかる作業で、大変な仕事であった。だからこそ一手に引き受けることで商売として成り立つのだともいえる。

この業界ではいわゆる「小ロット・多品種・短納期」が常識で、顧客の要望に対応できる力量が問われる。だが、このような厳しい条件が必ずしも悪いとも言えない。価格面だけを考えると中国には絶対に勝てない。しかし短い納期を加味すると逆に自社に強みがでてくるからである。

同社の作るマークの加工方法は3種類。マークを熱プレスで貼り付ける「貼付加工」、マークの縁をカガリミシンで縫いつける「チドリ加工」、そしてマークの縁を刺繍ミシンで刺繍止めする「刺繍加工」である。意匠登録の関係からプロチームと全く同じマークは作れないが、顧客の要望に合わせて、より本物に近いマークを作ることは可能だ。また、顧客のデザインを元にするオリジナルマークも注文が多い。デザイン部には有能なデザイナーを数人配置して、顧客のイメージを出来る限り忠実に実現し、満足いくマークを作り上げる。単にユニフォームに付けるマークといっても奥が深い。顧客の嗜好は十人十色である。だから、同社のラインナップも、書体ひとつをとってみても何十種類もある。これに色や大きさを組み合わせると相当のバリエーションになる。

マークは全国各地から地域のスポーツショップを通じて注文される。例えば、あるアマチュアの野球チームから注文が入るとする。ロットはせいぜい10~15着と少ない。チーム名は同じでも、背番号や個人名は一人一人違う。したがって一度に大量の生産はできない。また、後になってから1着だけの追加注文が入ることもある。

これを、注文を受けてからわずか1週間で仕上げる。そのため、業界初の「レーザーカッティングマシン」を開発した。「こういった多種多様の顧客のニーズに対応できるかそうでないかによって雌雄を決するのです」と奥村社長は自信をもって語る。



レーザーカッティングマシン

マークに関連した製品の需要は、スポーツのイベントや何らかの変化があると拡大する。例えばプロ野球チームのユニフォームが変わった時やサッカーW杯などの大会が開催される年には大きな需要をもたらす。先ごろ終了したサッカーW杯でも

フル稼働で生産を行い、大きな売上増があったのだという。

## 管理体制の強化と将来

社長は「それが最善か！！」を社是に掲げている。「社員には現状を見つめつつ、常に向上する気持ちをもって日々仕事に取り組んでもらっています」（奥村社長）。

スポーツをする層は比較的若い世代が多い。したがって若い社員の感覚で時流を見ていく必要もある。そのためどんどん権限委譲を進め、若い社員の力とアイデアを同社の原動力としている。



同社の「マーク」製品群

同社では受発注と生産工程を一括管理するオリジナルシステム（システムK）を10年前すでに作り上げていた。また、平成14年9月には品質管理部を設置し、納期と品質管理を徹底した。顧客からの注文は「カルテ形式」にして3年分保存している。顧客からの後日の追加注文に迅速かつ的確に対応するためだ。このカルテを電子化することも含め、顧客から注文を受けた段階で納期を即答できるシステムも今計画中だという。

昨今は衛星放送などのメディアが充実して、海外のスポーツ放送の露出度が増している。このようにスポーツの裾野がどんどんと広がっていくにつれ、ビジネスチャンスも増大すると考えている。今のところ将来的に大きな問題はないという小西マーク株式会社。新システムの構築、稼働と相まって今後のさらなる飛躍が楽しみである。

（丸尾、山城）